

## 第3回徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会 意見概要

区分	意見概要
徳島駅周辺のまちづくりのコンセプトについて	駅周辺における公共交通・歩行者優先の空間への転換は、十分に補完できる公共交通のネットワークが大前提になる。また、駅近くまで自動車でのアクセスや駐車ができる仕組みを確保しないと、公共交通の乏しいエリアからのアクセスが難しくなる恐れがある。
	岡山駅では、大型商業施設につながる地下街がにぎわっているようである。徳島市では地下街は難しいだろうが、アーケードのような囲まれた空間の整備が必要ではないか。
	全ての人が公共交通を利用するわけではなく、公共交通を含めた様々な選択ができるなど、現状を見据えた対策を検討し、次のステップを見据えながら、いかに計画を実現化するかが大事である。
	世界的な潮流で、人が集まって活動する場所（通りを含む）を目的地化しようという流れがある。タイムズスクエアなど、歩行者の割合を増やして観光地のメッカになった例もあり、地方都市でも適用できないか。
	現位置での鉄道高架ではもったいない。今の計画よりも高架線を北に振ることを考えて、史跡の制約がない南側の駅前広場を広げて、人の滞留やイベントができるような空間を創る戦略がよいのではないだろうか。
	今の駅前の空間では、人がゆったり回遊するスペースの確保は難しい。人の滞留が増えれば、東新町など向こう方面へも波及する。歩いて行ける距離でも、今はそのような空間がないために、人が歩けない状況である。
駅前広場の空間のあり方について	徳島駅から眉山までの動線について、全面歩行者化や、少なくともトランジットモールのようにバス・タクシーのみ通行可などを想定してもいいのではないか。
	歩行者優先空間を拡充するについては、一般車がロータリーに進入しない道路の確保や、拡充する空間のイベントやスポーツ等への運用など、それらの方策を検討してもらいたい。
	オープンカフェは大いにやってほしいが、公共空間で行うと空間占有の問題がでることもある。公共空間から極力規制を排除して、様々な利用が実現するような素地を創る必要がある。
	徳島市としては、LEDや阿波おどりなどの活用を考えて、街灯やイルミネーションの工夫で夜景の美しさを打ち出したり、駅前では阿波おどりが踊れるようなスペースを確保したい。それによって人の流れができて、そこにカフェなどの店が集まってくるようなことが高架前にできているとよい。
	駅前広場のイベントスペースについては、天理駅前広場の「コフブン」など、コンセプト自体が新しいもので、立体的な空間も見られるようになってきた。
にぎわいづくりのための取り組みについて	にぎわいの創出を目指すことのできる、まちづくり会社のような、マネジメントを行う組織を早急に立ち上げることが望ましい。都市再生推進法人であれば、道路法上の特例を活用して、収入源とすることもできる。
	公共施設で、赤字が出るような事業を進めるわけにはいかないもので、何らかの監理が働くまちづくり会社の設立が必要になるのではないか。
	全国のにぎわいづくりのための取組事例については、組織の仕組みではなく、結果を丁寧に見る必要がある。特に、マネジメントの核となる人材をどう確保するかがにぎわいを左右するのではないか。
	駅前広場のイベント利用を想定して、ガスや電気、水道等のインフラを整備した場合のビジネスモデルを検討してはどうか。
	阿波おどりの練習風景や徳島市の食材など、これからスポットを当てるべき観光資源のポイントはいくつかある。イベントによりにぎわいを創るのではなく、資源をうまく使って、日常から人が集まる仕組みが重要である。
	徳島城の石垣を夜間にLEDでライトアップすれば、観光資源となるので、年間を通した取組とすることが大事ではないか。 道路の美化も大事な視点である。ゴミの問題やたばこのポイ捨てなどについては、市の条例に期待したい。